

2012年7月3日
東日本旅客鉄道株式会社

中央線神田～御茶ノ水間の
赤レンガ高架橋に新たな名所が誕生します！
～旧万世橋駅遺構を整備活用し、まちの魅力向上をめざします～

JR東日本では、現在、環境配慮型オフィスビル「JR神田万世橋ビル」の建設工事を進めています。今回、隣接する赤レンガアーチ高架橋において、まちのさらなる魅力の向上を目指し、歴史的資源を活かしつつ、新たな価値創出につながる計画を推進してまいります。

○歴史的資源の活用として、高架橋に現存している旧万世橋駅のホームおよび階段の遺構（駅舎跡）を整備公開し、この土地の歴史を体感できる施設とします(2013年夏開業予定)。

○新たな価値の創出として、神田川との親水性(周辺環境との調和)を向上させるとともに、高架橋のアーチ内部についても、遺構と一体となった商業施設を展開し、まちの賑わい創出に貢献します(2013年春以降開業予定)。

1. 歴史と特性

- ・この土地は江戸時代には「すじかいみつけ筋違見附」という広場があり、多くの人々が行き交いました。
- ・1912年(明治45年)には、中央線の一大ターミナルとして万世橋駅が開業し、交通の要衝として賑わいました。
- ・その後、交通博物館(1936～2006年)が併設され、1943年の廃駅を経て、交通博物館閉館までの間、長きにわたり多くの人々に愛されてきた場所です。
- ・また、都心部において貴重な水辺空間である神田川があり、親水性の向上が求められています。
- ・さらに神田川を挟んで、秋葉原と神田須田町・淡路町が隣接し、この両エリアをつなぐ結節点・交流拠点としての役割が期待されています。



2. 旧万世橋駅遺構の整備

- ・鉄道の歴史を感じていただけるように、貴重な歴史的資産である旧万世橋駅の遺構を整備し、公開していきます。
- ・高架橋に現存する2箇所の旧駅舎の階段の遺構を通じて、線路階の旧ホーム部まで上がり、回遊を楽しめる施設とします。
- ・かつて駅だったことを体感していただけるように、旧ホーム部では、展望カフェ、屋外デッキを整備します。



旧万世橋駅の東側階段遺構(2006年撮影)

3. 万世橋高架下開発

- ・高架下のアーチ内部空間について遺構と一体となった商業施設を展開します。
- ・周辺エリアとつながるオープンスペースを設けるとともにレンガアーチの景観を活かした新たな賑わいのある通路を創出します。
- ・神田川側に親水デッキを設置し、都心部の貴重な水辺空間で新たな水辺の風景を創出します。

<開発コンセプト>

「万世橋駅サロン」

- ・当該地の周辺は、徒歩10分以内の圏内に11の駅があるアクセスのよい立地です。
- ・同エリアには電腦の街「秋葉原」、学術の街「御茶ノ水」、古書の街「神保町」などを含み、知的好奇心と趣味性が溢れるエリアとなっています。
- ・このような街の特性は万世橋駅が交通の要衝であった時代から続くものであり、当時は東京有数の繁華街として、文化・芸能・情報が集積し、文化人や著名人が多く訪れた街でありました。
- ・そんな当時のサロンのような文化・情報・知・技術の集積する場、またそれらの価値を発信し続ける場とします。



親水デッキ整備イメージ



高架下開発整備イメージ

4. 交流拠点づくり

「JR神田万世橋ビル」の2～4階において、地域の交流・学びの拠点づくりに取り組みます。2階には東京都認証保育所（申請予定・2013年4月開園予定）を、3階・4階にはラウンジ機能を有したコンファレンス事業（2013年春開業予定）を展開します。



神田万世橋ビル完成イメージ

当該地の歴史

1676年(江戸時代)	筋違見附の筋違橋が開通
1873年(明治6年)	筋違橋をアーチ二連の石造りの橋に改築
1903年(明治36年)	現在の位置に万世橋架橋
1908年(明治41年)	中央線御茶ノ水～昌平橋(仮駅)間開通
1912年(明治45年)	万世橋駅開業 (駅舎は辰野金吾による設計)
1914年(大正3年)	東京駅開業
1919年(大正8年)	中央線万世橋～神田～東京間が開通し、万世橋駅は中間駅となる
1923年(大正12年)	関東大震災により初代万世橋駅舎が焼失
1936年(昭和11年)	呉服橋駅付近から鉄道博物館が移転
1943年(昭和18年)	万世橋駅の営業を休止
1948年(昭和23年)	交通博物館に名称を変更
2006年(平成18年)5月	交通博物館の閉館(平成19年10月、大宮に鉄道博物館として移転)
2009年(平成21年)8月	交通博物館の建物解体工事着手
2010年(平成22年)7月	JR神田万世橋ビル新築工事着手
2012年(平成24年)7月	遺構整備および開発工事着手



1908年当時の路線概略図

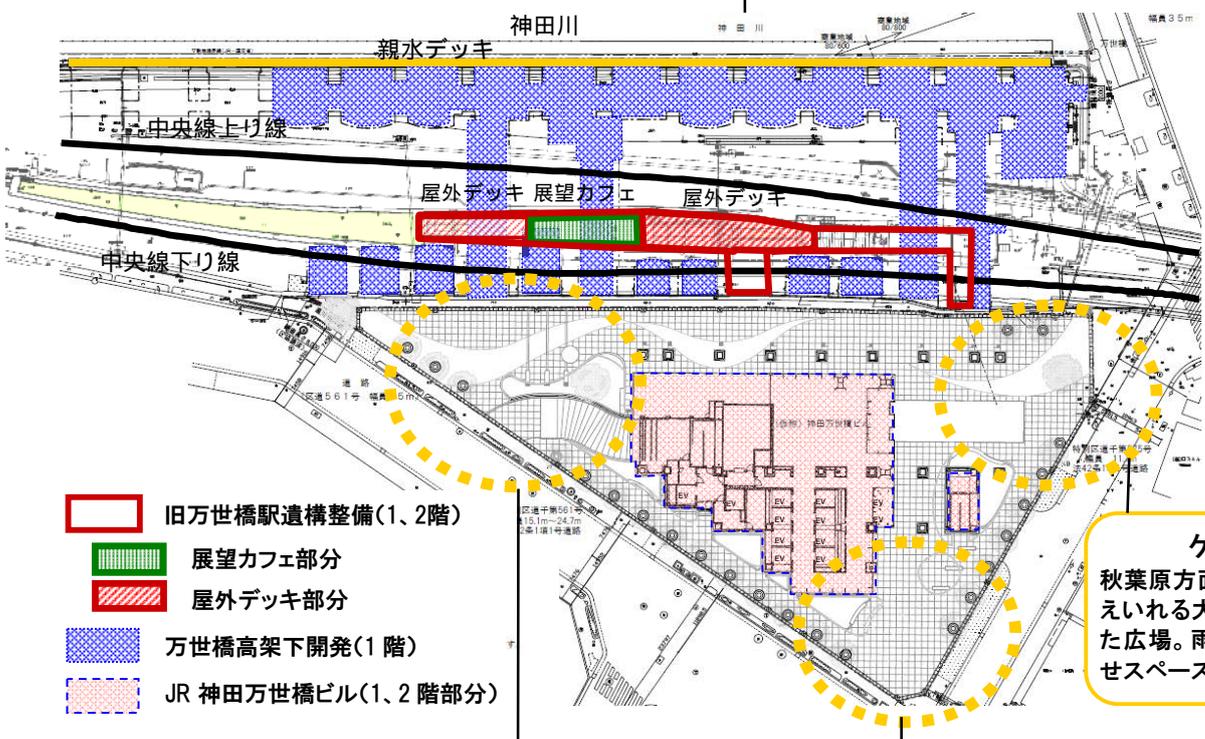
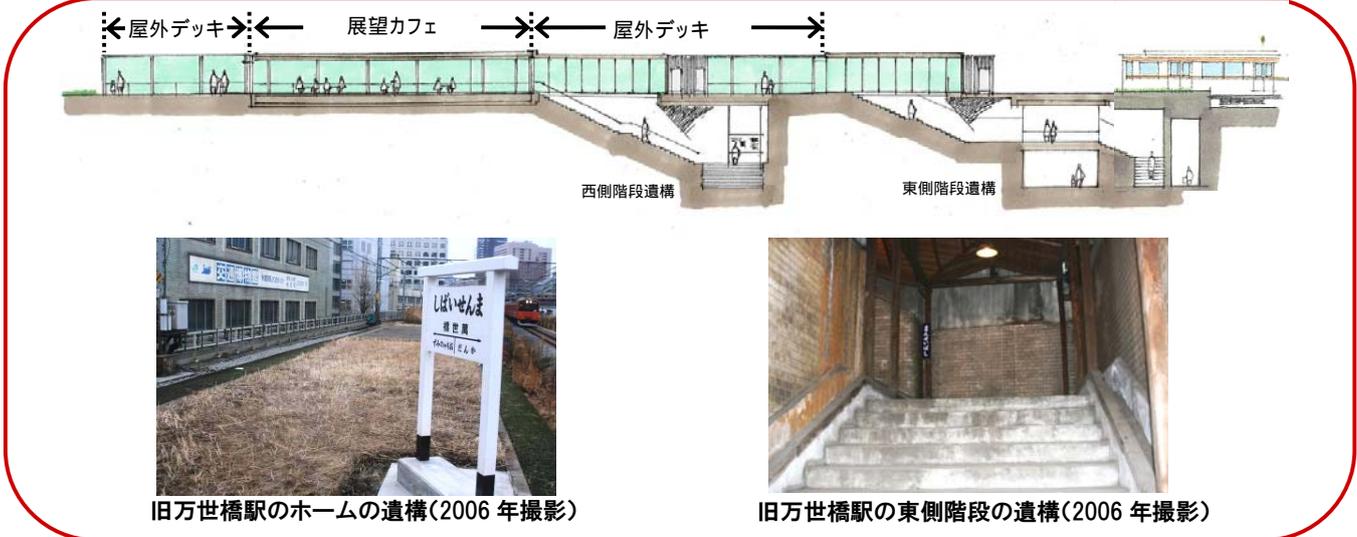


1912年当時の路線概略図



1919年当時の路線概略図

旧万世橋駅遺構整備および高架下開発のイメージ



ゲート広場
秋葉原方面からの来街者を迎え入れる大きなピロティを持った広場。雨にぬれない待ち合せスペースもある活動の拠点。

憩いの広場
御茶ノ水側のレンガ高架橋の景観と一体となった広場。ベンチなどの休憩スペースを多く配置。

ターミナルをイメージしたレンガベンチ

旧万世橋駅舎基礎の保存展示

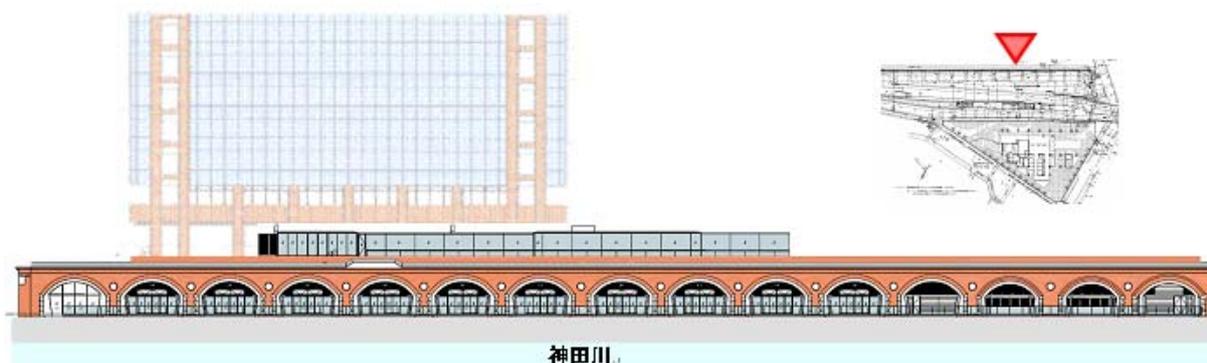
現計画に基づくものであり、今後、計画が変更となることがあります。

記憶の広場
旧駅前広場があった場所。歴史の記憶を残す広場。建物の形状を工夫し、高架橋の視認性を向上。

歴史の刻印
レールを使ったモニュメント

ピクチャースクリーン

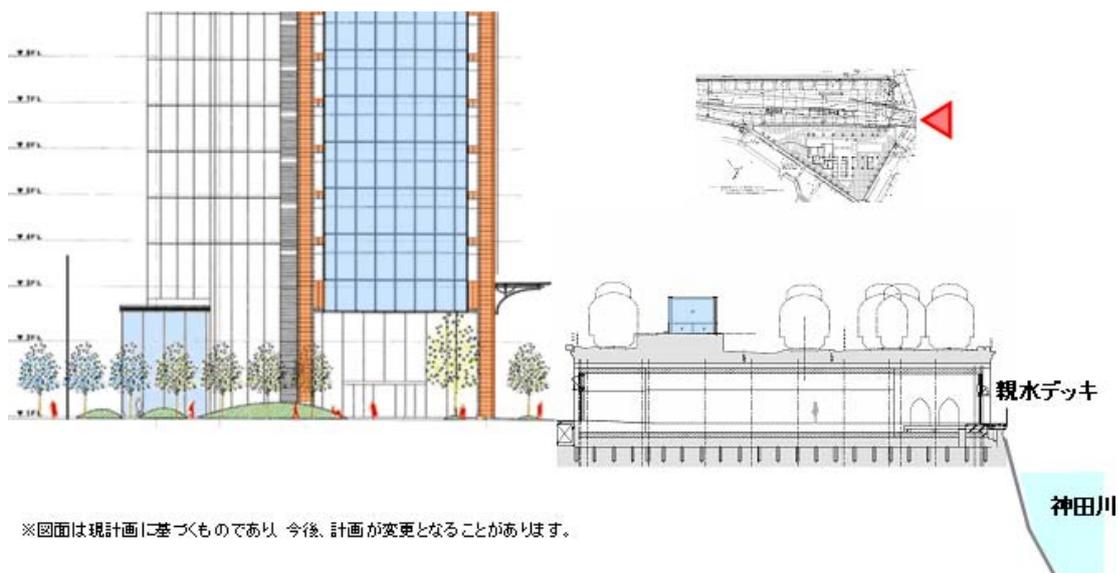
■ 立面イメージ1 神田川より



■ 立面イメージ2 敷地南側より



■ 立面イメージ3 敷地東側より



※図面は概計画に基づくものであり、今後、計画が変更となることがあります。

